様式第３号

令和５年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	58	学 校 名	静岡県立掛川工業高等学校	校 長 名	鈴木　学

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	新学習指導要領に即した生徒の**基礎的な学力及び技術･技能の定着を図り学び続ける人の基盤作り**	･基礎力診断テストにおいて学年の 50%以上が学習到達度 C1 以上。	○学習到達度 C1 以上の生徒 １回目 1 年 56.5% 2 年 43.2% 3 年 56.2% ２回目 1 年 62.2% 2 年 56.6%	A	○１回目より２回目の上位層が増え、向上が見られた。
		･観点別評価のルーブリックを踏まえた授業及び評価を実践している教員 100%。 ･「各授業の目標がはっきりしている」と答える生徒 80%以上。 ･自身が取得可能な資格・検定について理解している生徒 100%。 ･卒業時の生徒の国家資格･試験における取得･合格者率 55%以上。	○観点別評価のルーブリックを踏まえた授業及び評価を実践している教員 76.1%。 ○各授業の目標がはっきりしていると答えた生徒 1 年生 84.9% 2 年生 88.4% 3 年生 81.6% ○卒業時の生徒の国家資格･試験における取得･合格者率 61.8%	A	○今後もルーブリック作成等についての知識を情報提供するとともに、作成したルーブリックを共有できる体制を構築する必要がある。 ○各学年 80%を超えており、授業研究の結果が表れたものと考える。 ○実習、座学ともに評価基準を意識した授業を実践することができた。 ○３年間で取得可能な資格一覧を全ての生徒に配布し、ジュニアマイスターゴールドを目指すことを意識させた。 ○国家・資格・試験における取得･合格者について目標を達成することができた。
		･「授業のある日は授業以外で１時間以上学習に取り組んでいる」と答える生徒 80%以上。	○「授業のある日は授業以外で１時間以上学習に取り組んでいる」と答える生徒 80%以上。 1 年生 生　徒 61.0% 保護者 54.7% 2 年生 生　徒 71.4% 保護者 55.0% 3 年生 生　徒 56.9% 保護者 49.4%	B	○昨年度と比較し、全体として学習時間は伸びているが、目標値に届いていない。 ○学年が上がるにつれ学習時間が短くなっているので、各教科で家庭学習を習慣とするような方策を検討する必要がある。 ○家庭学習に取組みやすい課題の工夫が必要。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	ＩＣＴの活用と**「主体的･対話的で深い学び」の充実**	･ICT を活用した授業に取り組んでいる教員 100%。 ･一人一台端末の効果的な活用に資する公開授業等の実施。 ･授業を参観した教員 100%。	○ICT を活用した授業に取り組んでいる教員 71.5% ○一人一台端末の効果的な活用に資する公開授業等の実施及び一台端末を効果的に活用できる授業改善研究等を行っている教員 80.9% ○授業を参観した教員 85.7%	A	○科目の特性もあるが、一人一台端末を有効に利用するための方策を教科・学科で検討、実施し、その事例を共有する必要がある。 ○パワーポイントによる資料提示、映像提供、Google ドキュメントによる課題提出、小テスト実施ができた。 ○校内研修で、端末の効果的な活用法について情報共有できたことが一定程度奏功したと考えられる。今後は、事例の蓄積と内容についてブラッシュアップすることが必要である。 ○授業参観をする機会を設定した効果が表れたと考える。普段から互いに授業参観できるような雰囲気を醸成することが課題である。 ○学科職員全員が工夫を凝らした教材を作成し、授業で活用することができた。
		･授業以外で生徒が議論、協力、発信する場面を設定した教員 80%以上。	○授業以外で生徒が議論、協力、発信する場面を設定した教員は「やや当てはまる」を含め 95.3%	B	○授業以外で十分に設定することができなかった。 ○Classroom を有効に活用できた。
ウ	計画的なキャリア啓発と個に応じた適切な進路指導の推進	･「生徒の希望や適性を生かした進路指導、進路相談をしている」と答える生徒･保護者 80%以上。	○「生徒の希望や適性を生かした進路指導や進路相談を行っている」と答えた生徒は 88.0%、保護者は 85.1%であった。 1 年 生　徒 90.1% 保護者 90.5% 2 年 生　徒 87.5% 保護者 80.4% 3 年 生　徒 86.0% 保護者 84.3%	A	○進路課と協力し、丁寧な進路指導、進路ガイダンス、情報提供ができた。 ○卒業生の進路報告会等の開催で、進路意識を高めることができた。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	豊かな人間性を持ち地域や産業界でリーダーとなる生徒の育成	・準備を終えて授業・実習に臨む生徒 100%。 ・「挨拶や身だしなみの指導が明確で徹底している」と答える生徒・保護者 85%以上。	○「挨拶指導や身だしなみ指導が明確で徹底している」と答えた生徒は 81.0%、保護者は 84.8%であった。 1 年 生　徒 83.3% 保護者 86.7% 2 年 生　徒 78.6% 保護者 83.3% 3 年 生　徒 81.0% 保護者 84.3% ○準備を終えて授業・実習に臨むと答えた生徒 1 年　生徒 84.9% 2 生　生徒 88.4% 3 年　生徒 81.6%	B	○各 教 科・授業を大切に、時間を守って臨むことができた。 ○学年によって異なるが、予習をしていない生徒も２割弱いるため、予習することの効果を説明したり、予習を促すような取り組みを検討、実施することが必要である。 ○授業が始まってからロッカーに取りに行く生徒が若干いた。 ○清潔な身だしなみを心掛けたとともに、注意に対して改善することができた。
		・「学校生活が充実している」と答える生徒 80%以上。 ・「掛工へ入学してよかった」と答える３年生 75%以上。 ・生徒が参加した学校改善プロジェクトの継続実施。 ・外部機関等と連携した課題研究・実習の設定。	○「学校生活が充実している」と答えた生徒は 86.0%、保護者は 85.0%であった。 1 年 生　徒 87.0% 保護者 85.5% 2 年 生　徒 86.6% 保護者 78.4% 3 年 生徒 84.3% 保護者 91.0% ○「掛工へ入学してよかった」と答えた生徒は 85.4%、保護者は 85.8%であった。 1 年 生　徒 87.4% 保護者 85.6% 2 年 生徒 83.9% 保護者 80.3% 3 年 生徒 84.9% 保護者 91.5%	A	○概ね充実した学校生活が送れているものの、さらに充実度を向上させるための生活環境等の在り方を検討する必要を感じる。 ○自己肯定感を高める学校づくりをさらに推し進める。 ○評価指標が抽象的であるため評価が難しく、人それぞれである。 ○文芸部の活動では、地域の大人と関わることで成長がみられた。
		・１カ月（読書週間含む）に２冊以上の本を読んだ生徒 50%以上。	○全校調査の結果 ６月 43.3%、11 月 32.1%であった。	B	○啓発のための仕掛けづくりや日ごろからの環境醸成が大切である。 ○朝読書（年３回）が定着してきた。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
オ	**「ものづくり」の魅力拡大に寄与する教育･広報啓発活動の展開**	･出前講座、出前授業、ものづくり講座等、中学生が「ものづくり」を体験し魅力を感じる教育プログラムの開発と実施。 ･小学校や地域で「ものづくり」を体験し魅力を発信する講座の実施。 ･講座や学校説明会等に参加した児童生徒及び保護者数延べ 1,000 人以上。	○中学生模擬実習において、「ものづくりが好きになった」「楽しかった」と答えた生徒 97% ○説明会等参加者 オープンスクール 生　徒 325 人 保護者 228 人 1 日体験入学 生　徒 134 人 保護者 83 人 その他説明会 生　徒 186 人 保護者等 90 人	A	○中学生模擬実習 286 名、ものづくり出前講座は計 8 回実施し、128 名 参加があった。 ○魅力的な体験講座を実施することができ、各回ほぼ定員に達した。 ○学校説明会等に参加した児童生徒及び保護者数は 1,000 人以上の参加があり、目標を達成できた。
		･週あたり３日以上のホームページ更新。 ･学校公式 SNS の運用	○行事の様子なども含め最新の情報をホームページや Instagram を通じて広報啓発を展開した。 ○Instagram を開設。	B	○更新頻度が遅く、指摘事項の修正も行われていない。個々の依存するのではなく組織的な広報戦略が必要である。 ○Instagram を開設したことで、外部へ広く情報発信ができた。
カ	生徒･教職員が**安全･安心に授業や諸活動に取り組む**ことができ、地域や保護者から信頼される学校の教育環境整備	･「校内に悩み事などを話せる（相談できる）教員や仲間がいる」と答える生徒 75%以上。 ･学校全体で１日あたりの欠席 6.0 人以下、遅刻 2.0 人以下、早退 1.0 人以下。	○掛工には、悩み事を話せる先生や友人がいると答えた生徒（よく当てはまる、当てはまるを含め） 1 年　54.7% 2 年　58.9% 3 年　53.6% ○欠席、遅刻、早退については２学期末で、 欠席 10.4 日/人 遅刻 1.4 日/人 早退 1.5 日/人	C	○学校図書館に相談に来てくれる生徒が数名いた。学校図書館の１つの機能としての「居場所づくり」が浸透してきている。 ○１日あたりの欠席、遅刻、早退の目標には届かなかった。その要因として、長期欠席者の増加やコロナ禍の影響等が考えられる。 ○遅刻はほとんどなく、５分前の着席ができ、落ち着いた生活が送ることができた。
		･「学校は感染症対策等に配慮して教育活動を行っている」と答える生徒 100%。	○「学校は感染症対策等に配慮して教育活動を行っている」と答える生徒（保護者）は、「やや当てはまる」を含め 1 年 生　徒 92.1% 保護者 88.0% 2 年 生　徒 88.3% 保護者 88.2% 3 年 生　徒 84.9% 保護者 89.9%	B	○今後も必要に応じ生徒･保護者への呼びかけを行う必要がある。 ○感染症対策として非接触県測定器、消毒液の設置を継続している。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		・「校内が安全に整備、整頓されている」と答える生徒･保護者 80％以上。	○「校内が安全に整備、整頓されている」と答える生徒、保護者（やや当てはまるを含） 1 年 生　徒 83.3％ 保護者 86.2％ 2 年 生　徒 85.7％ 保護者 86.2％ 3 年 生　徒 83.7％ 保護者 92.1％	A	○女子更衣室の改修を企業と連携し生徒達が中心となって取り組んだ。 ○図書館での授業中、椅子に座っていた生徒の椅子が破損し、転倒があった。安全性を踏まえた備品購入の調査が必要である。
		・防災訓練の年３回以上実施。 ・日常の振り返りに基づく安全教育の毎月実施。	○「防災訓練にしっかりと取り組んでいる」と答えた生徒 1 年　91.1％ 2 年　92.8％ 3 年　90.3％ ○訓練は、４月（避難経路）９月（地震）１２月（火災・地震）の３回実施できた。	A	○防災訓練で行われた講演や話し合いなど、真剣な取り組みが見られた。また、防災訓練では点呼まで素早く行えた。 ○地震避難に対する講習、煙体験、消火器訓練を体験できた。 ○これまでの行動制限により、地域防災訓練が開催されない地域が多くあった。 ○実習集合・開始時には、安全目標等注意喚起ができた。
キ	学科･教科･分掌を超えた業務の平準化･効率化の推進	・各学科･教科･分掌で業務の平準化又は効率化に向けた提案１件以上。 ・一人当たりの年間の休暇取得時間 100 時間以上。	○年間 20 回程度、課会議を開催しての進捗状況や共有を図ることができた。 ○年間の休暇取得 100 時間未達成者数は 21 人。（令和 6 年 1 月末現在）	B	○学年内の業務をできるだけ分散し、学年付き職員に学年行事をお願いし、役割分担ができた。 ○学級指導・分掌・学年それぞれの業務に加え、早朝・放課後の資格検定指導の多忙さは解消されない。現状効率化は難しい。 ○年間の休暇取得 100 時間については年度内にほぼ達成できる状況である。